［課程－２］

審査の結果の要旨

氏名　浅井　裕美

本研究は職業性ストレス要因とパニック発作、パニック障害の関連を縦断的に明らかにするため､インターネット調査を用いて 2 年間の前向きコホート研究を行ったものであり、下記の結果を得ている。

１．職場の社会的支援が高い場合にパニック発作のハザード比が優位に低い結果となった。この結果は基本属性やライフスタイルに関わる変数、健康にかかわる変数、大うつ病性障害の新規発症のすべての交絡因子調整後も有意な結果であった。職場での社会的支援の高い状態は internalizing disorder へ同様の機序で作用し、パニック発作の発症リスクを軽減している可能性や、睡眠時無呼吸などパニック発作に繋がる症状を軽減している可能性が示された。
２．男性労働者においては中程度と高程度の努力報酬不均衡はパニック発作発症のハザード比が有意に高い結果となった。パニック障害発症のハザード比についても同様の傾向がみられたが、有意な結果ではなかった。努力報酬不均衡の高い状態はパニック発作発症につながる可能性が示された。
３．男女両方の労働者においては、うつ病の発症を調整後は有意な結果が得られなかったが、大うつ病性障害発症の交絡因子を調整する前までは仕事のストレインと努力報酬不均衡が高い場合に有意にパニック発作発症のハザード比が高い結果となった。これにより仕事のストレインならびに努力報酬不均衡の高い状態とパニック発作の関連において、大うつ病性障害の発症が強く影響している可能性が考えられる。

以上、本論文は職業性ストレス要因の中でも特に仕事の社会的支援の高さが、その後のパニック発作の発症につながることが示された。本研究はこれまで明らかにされていなかった職業性ストレス要因とパニック発作、パニック障害との縦断的な関連を明らかにし、労働者のパニック発作やパニック障害発症機序の解明に貢献することが考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。